

平成 30 年 6 月 10 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26350441

研究課題名(和文)安全なまちづくりにおけるソーシャルガバナンスの体制・制度に関する研究

研究課題名(英文)Study on Organization and System of Social Governance in Safe Community Programs

研究代表者

白石 陽子 (Shiraishi, Yoko)

立命館大学・衣笠総合研究機構・研究員

研究者番号：30551163

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「安全なまちづくりにおけるソーシャルガバナンスのモデル構築」研究(スタートアップ 2009-2010年)の成果を基盤に、その「仕組み」に着目した発展的研究「コミュニティの包括的安全診断および対策評価モデルの構築」(基盤研究C、2011-2014年)とあわせ、「体制・制度」に焦点をあて、安全なまちづくりにおけるソーシャルガバナンスが、効果的・効率的に機能する「体制・制度」のモデルを構築した。研究成果については、国内外の学会等で報告をおこなった。また、報告書として取りまとめ、コミュニティ及び研究者に紹介した。また、協働のまちづくりの手法として日本の17自治体で取入れられている。

研究成果の概要(英文)：Based on the preceding two studies on community safety promotion with social governance, this study has developed a model of the social governance focusing on the effective systems and organizations in community safety promotion. As for the academic achievement, the findings and the results of the research have been reported at the national and international conferences. Two reports were published in Japanese. As a practical aspect, seventeen communities have been introduced the result of this study for their community safety promotion in Japan.

研究分野：安全・安心なまちづくり

キーワード：安全・安心 協働によるまちづくり ソーシャルガバナンス 安全政策 セーフコミュニティ コミュニティエンパワメント 評価指標・成果測定

1. 研究開始当初の背景

1-1. 地域レベルでの包括的な安全対策の必要性の高まり

安全に対する不安は様々な場面で高まっており、その要因の一つとして「地域のきずな」の希薄化が指摘される。さらに、自然災害を経験するなかで、安全の確保には「公助」だけでなく「自助」、「公助」の充実が求められるようになった。そのような中、世界規模で広がっている「セーフコミュニティ(SC)」という地域主体の安全・安心なまちづくりに関心が集まってきた。

1-2. 限られた先行研究と政策研究へのニーズ(国内・国外の研究動向・位置づけ)

SCは、傷害を健康課題ととらえ、それを未然に防ぐことができる安全な生活環境を構築することで健康を増進するという公衆衛生の視点から始まったことから、世界保健機関(WHO)およびその関係機関が活動をリードしてきた。そのため、先行研究をみると公衆衛生分野での研究が主流を占めている。しかし、地域の安全向上のためには、多様な領域(交通、犯罪、災害、福祉、虐待など)の安全が総体的に底上げされる必要があり、公衆衛生に加えて多面的な視点からのアプローチが必要とされる。

特に、日本においては、公衆衛生の域を越えた「まちづくり」という包括的な視点からSCに関心をもつ自治体が増えているものの、情報や経験は限られており、政策的視点からの研究が求められている。

1-3. 「機能」を最大化する「体制」の必要性

このような状況を踏まえ、申請者は、SCにおけるソーシャル(ローカル)ガバナンスの視点から研究を進めており、「評価・測定」モデルの構築を通してローカルガバナンスの機能に関する研究を行った。しかし、「機能」に焦点をあてた研究を進めるなかで、「体制」や「制度」が構築されていないと、ローカルガバナンスは機能しないことがみえてきた。一方、協働の担い手である地域においては、地縁組織の弱体化や地域のきずなの希薄化から地域運営の体制そのものが課題となっている。そこで、現在の日本の実情にあった「体制」に関する研究を行い、先に行った研究と併せて「包括的なソーシャルガバナンスのモデル」を提示できると認識した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、基盤研究となる「安全なまちづくりにおけるソーシャルガバナンスのモデル構築」研究の発展的研究としてその「体制」に焦点をあてて、安全なまちづくりに向けた効果的なソーシャルガバナンスの体制・制度の構築を目的とする。

SCは、地域の分野横断的な協働を基盤に、生活におけるあらゆる安全を対象とし、行政

や関係団体・組織、地域住民など多様なアクターが関わるエビデンススペースの取組であることから、多様な領域の多面的な研究が必要である。そのため、これまでの研究に引き続き、本研究を通して、分野を超えた研究者の連携による包括的な地域安全の研究と研究成果を社会実装の仕組みの構築に向けた「きっかけ」と「プラットフォーム」の創出をめざす。

3. 研究の方法

3-1. 文献調査

政策的視点からのSCに関する先行研究は非常に限られていることから、まちづくりやソーシャルガバナンスなど関連領域を中心とした文献調査を行った。

また、SCを推進する国内外の自治体のSC認証申請書や行政書類からの情報収集を行った。

3-2. ヒアリング調査

SCに取組む国内外の自治体のSC担当者や地域住民、市長等へのヒアリングを行った。また、海外においてSCを推進している研究者へのヒアリング調査を行った。

4. 研究成果

4-1. 研究成果の内容

上記の研究方法によって得られたデータを「(協働)体制」「仕組み(診断 実践 振り返り)」、「推進力」の3つの分野に分類し、それらを構成する要素について検討を行った。

安全安心なまちづくりにおけるソーシャルガバナンスの体制及び制度のモデルとして、下記の3点(連携体制、体系的な仕組み、地域力)の視点を明らかにした。

分野横断的な参画体制として、「タテ」「ヨコ」「ナカ」の協働・連携体制の構築
国・都道府県-市町村-地域の連携(タテの連携)と、それぞれのレベルでの団体・組織間の連携(ヨコの連携)、それぞれの組織内での連携(ナカの連携)の具体的なモデルを示した。

「コミュニティ診断 介入 評価」として、PCAサイクルなど体系的な仕組みの導入方法を示した。特に、従来からの対策では、コミュニティ診断が行われていなかったり、取組み後の成果測定・評価が行われていなかったり、脆弱であることが多い。そのため、地域の協働によるこのサイクルの導入方法を示した。

推進力の構築

ソーシャルガバナメントにおいて上記の体制と仕組みを導入し、運営していくためには、行政だけでなく、地域の諸団体・組織の能力

が求められるが、行政に頼り切っている場合が多いことから、地域運営という意識の醸成から能力の育成の方法について示した。

指 標		
体 制	庁舎内協働	対策委員会への関与
		庁舎内組織の設置
		その他
	分野横断的協働体制	推進協議会
		対策委員会
その他の協働体制（警察組織など）		
地域・市民の参画（対策委員会への参加以外）		
仕 組 み	安全診断	主観的側面（ワークショップ等）
		客観的側面（データ収集・分析）
		アンケート調査の実施
	対策の推進	根拠に基づいた取組み
	アセスメント	内部評価
外部評価 （SC支援センターによる）		
推 進 力	トップダウン	首長の関与、リーダーシップ
	ボトムアップ	市民の主体性

加えて、上記を通じた取組（対策）の改善状況と活動の継続性をアウトプットとして確認した。

指 標		
対 策	対策の変化	各対策委員会の取組み
		モデル地区等での展開
継 続 性	首長のコミットメント	
	SC継続の仕組み	
	周知活動	
	再認証への取組み	

4-2. 成果の発信

学術的

国内外の学会で報告を行った。また、論文としてまとめた。また、研究成果を論文及び報告書としてまとめており、国内のセーフコミュニティ推進自治体において研究によって得られた成果が活用されている。

加えて、毎年セーフコミュニティ研究会を開催し、セーフコミュニティ活動を推進している自治体や関心を持っている自治体及び個人に対して研究によって得られた情報及び研究結果の提供を行っている。

実践的

SCを協働によるまちづくり、地域レベルでの安全向上に活用するにあたってのモデルを構築し、国内の自治体に情報提供を行うとともに、セーフコミュニティ活動の推進において導入されている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

白石陽子，日本における安全なまちづくり「セーフコミュニティ」の10年間の実績に関する考察，政策科学，24-4巻，査読なし，2017年，159-179頁

〔学会発表〕（計14件）

Yoko SHIRAIISHI，Haruki OKADA，Eriko MATSUNAGA，Impacts and Challenges of 10 years of Safe Community Programs at Kameoka City, Japan, 23rd International Safe Communities Conference, 2017

Yoko SHIRAIISHI，Impacts of Safe Community Programs in Japanese Communities, 23rd International Safe Communities Conference, 2017

Yoko SHIRAIISHI，Impacts on Safety in Public Places by Safe Community Programs in Japan, 8th Asian Region Conference on Safe Communities, 2017

Yoko SHIRAIISHI，Risk Management with Safe Community Model-Disaster Preparedness from aspects of three helps(self-, mutual-, and public help)-, 8th Asian Region Conference on Safe Communities, 2017

Yoko SHIRAIISHI，Disaster preparedness from the aspect of three helps(self-, mutual-and public-help) in Japan, Safety 2016 World Conference, 2016

Yoko SHIRAIISHI，Impacts of Safe Community programs in Japanese Communities, Safety 2016 World

Conference, 2016
Yoko SHIRAIISHI, What communities can and should do in Community Safety Management, 22nd International Conference on Safe Communities, 2015

Yoko SHIRAIISHI, Community Preparedness for Disaster Management, 22nd International Conference on Safe Communities, 2015

白石陽子, インターナショナルセーフスクールによる子どもの「安全力」の育成, 第62回日本小児保健教会学術集会, 2015年

Yoko SHIRAIISHI, Roles and Responsibilities of Communities and Countries Which have Experiences in SC-What can We Do to Initiate New Communities and Countries?-, 7th Asian Regional Conference on Safe Communities, 2014

Yoko SHIRAIISHI, Strategies for Safe Community at Local Level-What Local Government Can Do & Shouldn't Do-, 7th Asian Regional Conference on Safe Communities, 2014

Yoko SHIRAIISHI, Logical Linkages 1 Planning Surveillance/ Priority/ Objective/ Strategy, 7th Asian Regional Conference on Safe Communities, 2014

Yoko SHIRAIISHI, Yusuke ODA, Challenges to Prioritize Safety Issues with Safe Community Model in Kagoshima, 7th Asian Regional Conference on Safe Communities, 2014

Yoko SHIRAIISHI, Yusuke ODA, Challenges to Reduce Traffic Accidents involving Elderly with Safe Community Programs, 7th Asian Regional Conference on Safe Communities, 2014

〔図書〕(計1件)

白石陽子, 子どもが主役の安全で楽しい学校づくり~インターナショナルセーフスクール活動~心とからだの健康, 健学社, 2018年5月号, 12-18頁

〔その他〕

ホームページ等

<http://research1008yoko.sblo.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

白石 陽子 (SHIRAIISHI, Yoko)
立命館大学・衣笠総合研究機構・研究員
研究者番号: 30551163

(2) 研究分担者

()
研究者番号:

(3) 連携研究者

山田 典子 (YAMADA, Noriko)
日本赤十字秋田看護大学・看護学部看護学科・教授
研究者番号: 10320863

(4) 研究協力者

今井 久人 (IMAI, Hisato)
滋賀大学社会連携研究センター・客員准教授